

令和5年度 会長賞

佐藤羊治 様 (東青山TC)

1939年(昭和7年)生まれ 91歳

新潟市西区の佐藤羊治さん

生涯スポーツ 85歳現役

テニスは、性別や年齢を問わず楽しめる「生涯スポーツ」で、多くの人と交流できるのが魅力だ。新潟市西区の佐藤羊治さんは、85歳の今も週6日練習を欠かさず、年に10回ほど県外を含む大会に出場する。ショットの威力は若い人になわなないが、粘り強く球を拾い、相手のミスを誘う。

高校時代に軟式テニスを始め、新潟市役所に勤めていた50歳ごろ硬式に転向。「今も健康でいられるのはテニスのおかげ。練習後に仲間と一杯飲みながら政治や経済について話すのが楽しみ」と笑う。テニス仲間からも「練習をサボらず、マナーもきれい」と慕われている。

新潟市テニス協会はかつて、ジュニアのトップ選手の育成に注力していたが、近年は「裾野の拡大がトップ育成につながる」(法龍院さん)と強調。シニアや初心者らさまざまな年代、レベルの人が楽しめるよう、きめ細かく大会やイベントを開催する。

大会出場者向けに、年会費千円で個人登録してもらい、試合結果に基づいてランキングも公表する仕組みを導入。個人会員数は17年に1756人で前年比100人余り増と好調。活性化の取り組みを首都圏の協会から視察に来たこともあるという。

法龍院さんは「どんな人にも楽しんでもらえるよう、さまざまな選択肢を用意している。気軽に問い合わせしてほしい」と語る。

新潟市テニス協会はかつて、ジュニアのトップ選手の育成に注力していたが、近年は「裾野の拡大がトップ育成につながる」(法龍院さん)と強調。シニアや初心者らさまざまな年代、レベルの人が楽しめるよう、きめ細かく大会やイベントを開催する。

新潟市テニス協会はかつて、ジュニアのトップ選手の育成に注力していたが、近年は「裾野の拡大がトップ育成につながる」(法龍院さん)と強調。シニアや初心者らさまざまな年代、レベルの人が楽しめるよう、きめ細かく大会やイベントを開催する。



85歳の今も週6日テニスを楽しむ佐藤羊治さん(右) 新潟市東区